

金沢21世紀美術館 新規事業「自治区」02

アルフレッド・ジャー トークプログラム



4月23日(日)に、金沢21世紀美術館プロジェクト工房にて、新規事業「自治区」のトークプログラム、自治区02アルフレッド・ジャー〈IT IS DIFFICULT〉を開催します。1994年のルワンダ虐殺を主題とした「ルワンダ・プロジェクト」など、社会的・政治的な問題に対して透徹した眼差しを向け続けるアーティスト、建築家、映像作家のアルフレッド・ジャーをゲストに招き、世界について共に考えるトークプログラムです。貴メディアにてご取材・事前告知をお願い申し上げます。

〈IT IS DIFFICULT〉とは

プログラムのタイトル〈IT IS DIFFICULT〉は、20世紀アメリカを代表する詩人ウィリアム・カーロス・ウィリアムズの詩に由来します。”It is difficult to get the news from poems yet men die miserably every day for lack of what is found there.”「詩からニュースを得ることは難しいが、詩がもっているものを欠かせいで、人は毎日みじめに死ぬ」という一文は、深刻さを増す人々の状況について言及するアルフレッド・ジャーの眼差しを表すものです。2012年、同名のレクチャーをベルリンでも開催。会場は満席で人々の強い共感を得ました。

アルフレッド・ジャー Alfredo JAAR

1956年サンチアゴ(チリ)生まれ。アーティスト、建築家、映像制作者。82年にニューヨークに移り、以来現在に至るまで精力的に作品を発表している。イメージがもつ社会的影響力とその限界を問い続けており、戦争や軍事紛争、社会運動や政治腐敗、南北格差など社会的・政治的な問題に対して透徹した眼差しを向け、妥協を許さない取材や分析から生み出されたプロジェクトで知られる。とりわけ1994年にルワンダで発生したジェノサイドを主題とした「ルワンダ・プロジェクト」は国際的に高い評価を受け、彼の代表作のひとつとなっている。

ヴェネツィア・ビエンナーレ(1986, 2007, 2009, 2013)やサンパウロ・ビエンナーレ(1985, 1987, 2010)、ドクメンタ(1987, 2002)など数多くの国際展に参加。日本国内でもあいちトリエンナーレ2013、恵比寿映像祭(2010)に参加している。

「自治区」について

今年度、金沢21世紀美術館が立ち上げた自主自由自律自治をコンセプトにした活動区の総称。美術に限らず科学、歴史、社会学など、学際的に他の領域を横断しつつ、年間を通してライブ、映像上映、トーク・シリーズ、滞在制作、身体表現など多様なプログラムを継続的に実施。「自治」をキーワードに、外部コミュニティとの連携・協働を通じて、これまでの美術の領域を超えるべく実験的なアクティビティを展開するものです。公式サイト <http://jichiku.com>

イベント名 自治区02 アルフレッド・ジャー〈IT IS DIFFICULT〉

日時 2017年4月23日(日) 13:00~14:30

会場 金沢21世紀美術館 プロジェクト工房

料金 500円(1ドリンク付) 定員 80名(自治区公式サイトjicjiku.comにて予約受付中)

出演 アルフレッド・ジャー 言語:英語/日本語(逐次通訳)

主催 金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]

お問合せ 金沢21世紀美術館 TEL 076-220-2800

取材申込み/問合せ先

金沢21世紀美術館 広報担当:川守(広報室) 事業担当:鷺田(学芸課)
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp
※ご取材の際には、事前にご連絡をお願いします。

